

皆人を

寝よとの鐘は

打つなれど

君をし思へば

寝ねかてぬかも

(笠女郎 卷四・六〇七)

671(天智天皇10)年4月25日、日本初の水時計がつけられたことが『日本書紀』に記されています。この日は、紀元前から使われていたユリウス暦では6月7日、16世紀に使われはじめたグレゴリオ暦では6月10日にあたり、現在は6月10日が「時の記念日」となっています。

水時計は、日時計とともに最古の時計であると考えられています。が、いつどこで発明されたかは判然としません。少なくとも、バビロニアやエジプトで紀元前2000年〜1600年ごろには使用されていた記録があるそうです。

日本の水時計は古代中国から伝わったもの

やまと  
万葉がたり

で、複数の水槽を階段状に配置して水を落とす構造であったことから「漏刻」と呼ばれました。飛鳥資料館で模型を見ることが出来ます。その漏刻のための建造物が飛鳥寺の近くに建てられた「漏刻台」であり、現在は「飛鳥水落遺跡」の名で知られています。

漏刻台は時刻を知ら

せる鐘をつくための施設でもあったようです。この歌は、そうした古代の時報を詠み込んでいます。寝る時刻を知らせる鐘の音を聞きながら、愛しい男性のことを想って眠れないでいる女性の心情が表現されています。か

【訳】皆の人を寝よとて鐘は打つのだが、あなたのことを思うと、いねがたいことです。

だ、別居婚が一般的であったとされる当時、今夜はもう来ないであろう男性を待ち続ける女性の様子と、皆が寝静まった夜の静寂に響き渡る鐘の音が想起される歌だと思えます。

暦も時計も、いわば時を可視化する道具であり、中央集権国家には欠かせないものでした。

(県立万葉文化館企画・研究係長・井上さやか)

# いざ子ども

天地の

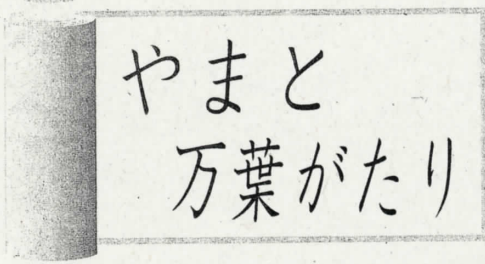
狂業なせそ  
固めし国そ

大倭島根は

藤原仲麻呂(巻二十・四四八七)

この歌に付けられた  
題詞と左注によると、  
天平宝字元(757)  
年11月18日に内裏で催  
された宴席において、  
当時紫微内相という  
官職にあった藤原仲麻  
呂(藤原武智麻呂の子)  
がこの歌を披露しまし  
た。紫微内相とは、光  
明皇太后の家政機関で  
ある紫微中台の長官  
です。紫微中台は、光

明が聖武天皇の皇后で  
あった時に家政機関と  
して設置された皇后宮  
職を改称した組織で、  
光明は娘の孝謙天皇の  
後見をとめるため、  
この機関を通じて国政  
運営に関与しました。  
仲麻呂はその長官とし  
て、伯母に当たる光明  
の後ろ盾を得て権力基  
盤を築きました。同年  
4月には仲麻呂と関係



の深い大炊王(舎人親  
王の子)が皇太子に立  
てられ、仲麻呂はます  
ます権勢を振るうよう  
になります。  
当時の政界には、こ  
のような仲麻呂の台頭  
に反発する勢力も存在  
しました。その代表が  
橘奈良麻呂(橘諸兄の  
子)です。同年6月に  
反仲麻呂勢力を排除す  
るための人事が行われ

たのを機に、奈良麻呂  
は反仲麻呂派と密かに  
会合を重ねて仲麻呂打  
倒計画を立てますが、  
その計画は密告により  
露見します。仲麻呂は  
奈良麻呂の一角を逮捕  
し、多数の関係者を肅  
清しました。この事件  
を「橘奈良麻呂の変」  
と呼びます。奈良麻呂の変の事後  
処理が落ち着いた同年  
8月、孝謙天皇は改元  
して年号を天平宝字と  
定めました。改元して  
初めての新嘗祭が11  
月17日に行われ、翌18  
日には恒例により豊  
明節会が宮中で催さ

れました。この歌はそ  
の席上で仲麻呂が歌っ  
たものです。「狂業」  
とは、直前に発覚した  
奈良麻呂らによるクー  
デター計画のことを指  
すとみられます。天と  
地の神々が固めた国で  
ある日本は、たわけた  
人々による妄動程度で  
はびくともしないの  
だ、という仲麻呂の自  
信に満ちた思いが、こ  
の歌にあふれているよ  
うに思います。  
(県立万葉文化館主任  
研究員・竹内亮)

【訳】人々よ、たわけた事をしてはいけない。  
天と地が固めた国なのだ、やまとの国は。